

予防接種の前に確認を! 新型インフルエンザのワクチンについて

～接種時期、対象者、実施医療機関などは5・6面をご覧ください～

新型インフルエンザのワクチン接種は重症化の防止に一定の効果があるといわれています。しかし、感染防止の効果は保証されていません。また当面確保できるワクチンの総量が限られており、その中から順次供給されます。国は死亡者や重症者を減らすため接種対象者の優先順位を定めています。接種対象者の方で希望する方にワクチン接種が行われますが、優先順位によって接種時期が異なりますのでご注意ください。 ◆健康年金課 係(☎438-4021)

新型インフルエンザの特徴

感染力は強いですが、多くの感染者は軽症のまま回復しており治療薬(タミフル・リレンザ)が有効です。ただし、基礎疾患(糖尿病、ぜん息など)のある方や妊娠している方は重症化する可能性があり、注意が必要です。

インフルエンザワクチンの有効性・安全性

国内産のワクチンは、安全性は長年接種されてきた季節性インフルエンザワクチンと同程度と考えられ、有効性もある程度期待されます。輸入されるワクチンは、海外で承認されていることを前提として、さまざまなデータをもとに、有効性・安全性を確認してから実際の接種をはじめます。

インフルエンザワクチン接種の意義

今回の新型インフルエンザワクチンは、はじめて作るものですが、これまでのデータから、重症化や死亡の防止に一定の効果が期待できます。ただし、感染防止の効果は証明されておらず、接種したからといって、かからないわけではありません。

ワクチン接種の効果とリスク

ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、はれたり、熱が出るなどの症状が見られたりするほか、まれに重い症状を引き起こす可能性もあります。リスクを100%は排除できないのです。この点をご理解いただいたうえで、接種を受けていただくようお願いします。

新型インフルエンザワクチン Q & A

Q. 季節性インフルエンザワクチンは新型インフルエンザにも効果がありますか?

A. それぞれのワクチンはそれぞれのインフルエンザにしか効果がないと考えられています。季節性インフルエンザワクチンの接種を希望する場合(特に高齢者は接種することが望ましい)は、12月中旬ごろまでに接種をすることが望ましいとされています。なお、既存の製法による国内産の新型インフルエンザワクチンと、季節性インフルエンザワクチンの同時接種は、医師が必要と認めた場合には実施可能と考えられています。

Q. 新型インフルエンザワクチンの接種によって引き起こされる症状(副反応)にはどのようなものがありますか?

A. 今回の新型インフルエンザワクチンも季節性インフルエンザワクチンと同様の副反応が予想されます。
季節性インフルエンザワクチンの場合、接種した部位(局所)の発赤・腫脹、疼痛などがあげられます。また、全身性の反応としては、発熱、頭痛、悪寒、倦怠感などが見られます。さらに、まれにワクチンに対するアレルギー反応(発疹、じんましん、発赤と掻痒感)が見られることがあります。
接種局所の発赤、腫脹、疼痛は、接種を受けられた方の10～20%に起こり、全身性の反応は、接種を受けられた方の5～10%にみられ、2～3日で消失します。

Q. 妊娠中ですが、おなかの子への副作用はありませんか?

A. 日本で使用されるインフルエンザワクチンは生ワクチンではないので重い副作用は起こらないと考えられ、一般的に妊娠中全ての時期に接種可能であるとされています。
なお、新型インフルエンザワクチンの複数回接種用のバイアル製剤(小瓶に注射液が充てんされている製剤)には季節性インフルエンザ用のワクチン同様に「チメロサル」などの保存剤が使用されています。「チメロサル」はエチル水銀に由来する防腐剤ですが、過去に指摘された発達障害との関連はないとされています。今回の新型インフルエンザワクチンでプレフィルドシリンジ製剤(あらかじめ注射器に注射液が充てんされている製剤)には保存剤の添加は行われていません。この製剤は11月16日(月)から接種できます。希望する方はかかりつけの産科にお問い合わせください。

Q. 授乳中にインフルエンザワクチンを接種しても問題ありませんか?

A. インフルエンザワクチンは不活化ワクチンというタイプで、病原性をなくしたウイルスの成分を用いているため、ウイルスが体内で増えることなく母乳を介してお子さんに影響を与えることはありません。

詳しくは、市 係 をご覧ください。